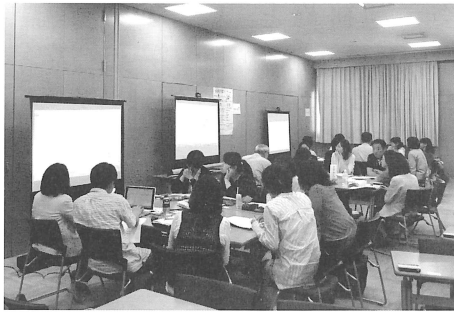


連携・調整のエキスパートを目指し、医療福祉連携講習会に参加しました。医療系および福祉系の座学はもちろん、クリティカルパスを



会場風景

作成するなどの演習や、実習と体系化された学びの場となっています。講師陣は、それぞれ単元のスペシャリストばかりで、学会や研修会とはまた違い、基礎から学べました。初めての分野は理解しやすく、自分の専門性の分野では、視野が広がります。実習では、地域でネットワークをつくり連携する仕組みをつくる人材として、その基礎を身につけるため、医療系・福祉系の実習を自ら依頼していく過程を体験していきます。実習自体は大変でしたが、シラバスをもとに実習したことを報告書にまとめることで、地域からみた病院や施設の在り方、連携の課題が見えてきました。一番は、同期とのネットワークでしょうか。グループラインを通して、地域を超え情報をやりとりする、それが地域とのネットワークを創る今後の力となってくれることです。短い期間で、こんなにも多くの成果が得られ、財産となりました。地域の医療福祉の円滑な連携の推進に生かしていきたいと思ひます。

2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して

国立病院機構浜田医療センター医療クラークリーダー
田中 加奈子



会場風景

このたび医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加させていただきました。講習は採用時の32時間研修(いわゆる初期研修)に準じた講義も含め、実務に必要な臨床医学の基礎知識、コーチングやメンタルヘルスなど多岐にわたる内容でした。4日間という短い期間でしたが、大変内容の濃い講習会でした。

指導者養成目的の講習会ということでしたが、職種の特性もあり、さまざまな立場にある方が参加されていました。病院全般の事務に精通されている管理職の方、実務を行いながらリーダー役となられた方、常勤職員、非常勤職員など。ワークショップでは、立場の

違いがある中で多角的な意見交換ができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

講義でもお話があったように、日本ではまだ歴史の浅いこの職種をいかにマネジメントしていくかということが、今後の医師事務作業補助者の発展に大きく関わると考えられます。これは指導者にとって喫緊の課題であり、またやりがいを感じられるところだと思います。マネジメントという観点から、今後は教育体制、適材適所への配置、評価、キャリアパスの構築などにも力を入れなければならないと、あらためて感じました。今後もこのような講習会や研修等を通して情報共有を行いながら、医師事務作業補助者が働きやすい環境整備に努めたいと思ひます。最後になりましたが、学びの機会を与えていただきました日本医療マネジメント学会関係者の皆様へ感謝申し上げます。

2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して

愛媛生協病院メディカルアシスタント 大西美和



会場風景

今回初めて日本医療マネジメント学会主催の講習会に参加しました。医師事務作業補助者指導者養成講習会では、医師事務作業補助業務と

それを取り巻く様々な分野について、素晴らしい講師陣から、4日間に渡り、20を超える講義で指導いただきました。

受講者は99名でした。全国で医師事務作業補助者として経験豊富な方が多く参加されており、ワークショップや休憩時間には、他の病院での業務内容や教育方法をうかがうことができ、日々悩んでいた人材育成や業務拡大について、有意義な意見交換ができました。

講義では、指導者として、医療用語や担当科の専門知識・診療報酬を理解し、精度の高いカルテ記録やオーダー入力を行うことの重要性を再確認しました。業務の効率化・標準化については、具体的な事例を基に学習しました。スタッフのモチベーションを上げることの重要性を感じ、私たちが病院の経営改善に関わることが今後の医師事務作業補助業務の発展につながるという意識付けができました。今回の講習会で学んだことを糧に、医師そして病院へ提案できる医師事務作業補助者となるよう自己研鑽し、当院メディカルアシスタント課が一体となり戦略的支援を行っていただけるよう努力していきたいです。